



建物外観

## 建築概要

建設地：東京都港区虎ノ門 1-15-16  
 建築主：公益財団法人笹川平和財団  
 設計：株式会社松田平田設計  
 施工：大成建設株式会社  
 建築面積：840.32m<sup>2</sup> 延床面積：9,320.52m<sup>2</sup>  
 階数：地上12階、地下1階 高さ：56.82m  
 構造種別：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、  
 鉄筋コンクリート造

## 選評

この建物の特徴は免震構造＋外殻構造により、コアを無理なく偏心配置させていることである。偏心コアは基準階においてL型の効率的なオフィス空間をつくるだけでなく、コア自体も自然光に溢れた心地よいスペースとなっている。1階においても表通りと北側道路の2面にオープンスペースをつくり出し、開放的な街区形成に貢献している。外殻フレームは制震オイルダンパーを付加することで部材のスリム化が図られており、基準階は細柱を1.8mピッチに並べてコラムレスな執務空間と端正なファサードを構成し、低層部はフィーレンディールトラスを介して7.2mピッチのピロティ柱に切り替えることで3層吹き抜けにふさわしい大らかなフレームを実現している。

ひとつひとつの特徴が特に目新しいわけではない。しかし、これらの特徴が綿密に計画され、さらりと高いクオリティで統合されていること、そうした連関の総合性に免震＋制震構造の採用が大きく寄与していることが高く評価された。また、ピロティ柱の柱脚部エクスパンションをゴロタ石で覆うディテールなど、細部に渡るきめ細やかな配慮も興味深かった。  
 (下吹越武人)

建築主：公益財団法人笹川平和財団 羽生次郎  
 設計者：株式会社松田平田設計 菊地岳史、藤田啓史、牧野健二  
 施工者：大成建設株式会社 伊藤清仁

## 免震化した経緯及び企画設計等

本建物は、公益財団法人笹川平和財団の新たな本部ビルとして計画された。事業継続が可能な高い耐震性や機能的で使い易い施設計画、及び環境や地域への貢献が要求された。「免震＋制震の外殻構造」の採用により、高い耐震性の確保に加え、使い易さを追求したコンパクトな偏心コアとコラムレスの執務空間を実現している。

## 技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

免震による減衰効果により偏心コアによるねじれ振動を抑制し、制震（コアにオイルダンパー付加）による上部架構の更なる応答低減効果により外殻フレーム部材の縮小化を図っている。執務空間内に柱を出さない外殻アウトフレームの採用により、オフィスの使い易さを向上させ、さらに梁を庇、柱を縦ルーバーの環境装置として機能させ、日射遮蔽効果により空調負荷を低減させている。外殻細柱は4階のフィーレンディールトラスを介してピロティ柱へ繋がっており、柱を集約し、免震支承と杭の設計を合理化するとともに、3層吹き抜けの解放的な空間を創出し、街と繋がるオフィスを構築している。



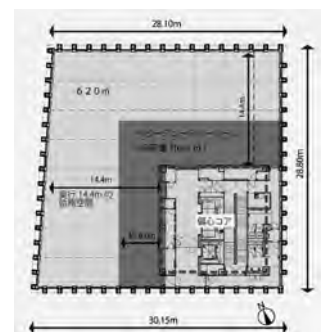
基準階事務室



ピロティ空間



外殻フレーム



基準階平面図

(写真撮影：川澄・小林研二写真事務所)